

網走市民のリサイクルに対する関心と行動の関連性の分析

【目次】

第1章 問題意識と研究目的	第2節 リサイクル促進要因・阻害要因
第2章 リサイクル行動における社会的ジレンマと分析シナリオ	第3節 内的要因や属性のリサイクルに対する影響力
第1節 リサイクル行動におけるジレンマ	第4節 リサイクル行動に対して影響を与える要因分析の結果
第2節 分析シナリオ	第6章 環境に配慮する態度とリサイクル行動の関係
第3節 分析に使用するデータ	第1節 環境に配慮する態度の定義
第3章 網走市におけるリサイクル行動と調査データ	第2節 環境問題に対する関心とリサイクル行動の関係
第1節 網走市で行われているリサイクル行動の種類	第3節 環境問題に対する関心とリサイクル行動分析の結果
第2節 網走市におけるアンケート調査の結果	第7章 態度と行動に矛盾がある個人の特徴
第4章 リサイクル行動の特徴に関する分析	第1節 正当化モデルによる正当化戦略の採用傾向
第1節 リサイクル行動の行われている程度	第2節 態度と行動に矛盾がある個人の正当化戦略採用の特徴
第2節 リサイクル行動同士の関連性	第3節 正当化戦略の採用傾向の特徴分析の結果
第3節 リサイクル行動のタイプ	第4節 将来的なりサイクルへの協力意思
第4節 リサイクル行動の特徴分析の結果	第8章 要約と結論
第5章 リサイクル行動に対して影響を与える要因	引用文献
第1節 リサイクル行動に影響を与える要因の定義と社会的ジレンマ	

【目的】

網走市民のリサイクルの実行率や環境問題に対する意識を調査することで、環境問題に関心があるのにリサイクル(資源を分別して出す)をしない人の特徴を示すことである。

【方法】

網走市民にアンケート調査をおこない、アンケートから得たデータを利用して篠木(2007)の合理的選択理論に基づく正当化モデルを用いることで、環境問題に関心はあるがリサイクルに取り組まない矛盾がある人の特徴を分析する。

【結論】

本論文の結論は、1) 網走市民のリサイクルの実行率はごみステーションに出せる資源物の缶、ビン、ペットボトルの実行率は95%以上であるが、専用の回収ボックスまで持っていく衣類の実行率は40%ほどしか実行されていないことが明らかになったことである。環境に関心が高くても実行されにくいリサイクルがあるのが分かった。2) 網走市民で、「環境問題に関心があるのにリサイクルをしない矛盾のある個人」の属性の特徴として、低年齢、低収入、短めの居住年数で世帯構成が少ない人に多くみられる傾向であることが分かったことである。3) 将来的なりサイクルへの協力意思では、現在の制度でリサイクルを実行している人ほど新しく分別が増えても協力意思が強い傾向がある。また、リサイクル促進要因を高めていくことで市民の協力意思が大きくなるのも分かったことである。よってリサイクル促進要因が活性化すれば、分別が増えても市民の協力を得られることが期待できる。

【参考文献】

篠木幹子『環境問題へのアプローチ ごみ問題における態度と行動の矛盾に関する正当化メカニズム』多賀出版株式会社, 2007年